

# 弦楽器の基礎知識

## 4) 弦

弦にはたくさんの種類があります。楽器の音色は使われている弦によって結構左右されます。しかしあまりにもたくさんの種類があるので、弦選びにお困りの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。売られている弦のパッケージを見ると、メーカーや商品名は、大きく書かれています。物理的な構造の違いなどはスミの方に小さく、しかも外国語で記されています。初めて見る人や初心者の人にわかりにくいのも当然のことです。しかし、弦の特色を知ることは演奏家としての最小限の知識であり、楽器の特性を最大に引き出すためには重要な事です。

弦を構造的な違いから区別していきましょう。まずヴァイオリンの場合一番線にスチール以外の弦が使われることは古楽器をのぞいては無いので考慮外です。弦は大きく分けて、ガット弦（羊の腸で出来ている）とナイロン弦とスチール弦（金属）の3種類に分けることが出来ます。外から見える部分でなく、実際に張力のかかる心線の材質で決まります。楽器の構造や演奏の形態が時代と共に変化してきたのと同様に、弦も様々な改良がくわえられる事により、色々な種類ができてきました。オリジナルの弦は、裸のガット弦でした。さらに大きな音を出すために金属が回りに巻かれるようになり、そしてスチール弦ができ、さらにスチール弦に金属線を巻いたり、またガットの代わりにナイロンを使用する弦が出現しました。今でも様々な合成繊維が弦のために開発されて行ってますし、金属でもタングステン合金の弦もよく見かけるようになりました。

では、実際に弦を選ぶときはどの様にすればよいのでしょうか？ 楽器の特徴や演奏家の腕も、弦を選ぶときに考慮しなければなりません。一般的にヴァイオリンですと年月の経った楽器は、ガット弦の方が独特の美しい音がでることも多いですが、近代の楽器や大きな音を出したい人、また発音の良い音をのぞむ人は、ナイロン弦を使用する場合があります。初心者の場合、ガット弦は湿度や温度に敏感で狂いやすいので、調弦の都合上扱いやすいのは、スチール弦がもちいられます。またチェロの場合は、ガット弦やナイロン弦では音が弱々しくなりすぎるので、スチール弦が好まれています。

具体的に弦のメーカー名と種類の名前を並べてみましょう。古くから大手のメーカーであるピラストロ社の場合、オリーブ (Oliv)、オイドクサ (Eudoxa) などがガット弦で、シノクサ (Synoxa)、トニカ (tonica) などがナイロン弦、そしてクロムコア (Chromcor) はスチール弦です。また、ウィーンのメーカー・トーマステイク社の、ドミナント (Dominant) はナイロン弦。スピロコア (Spirocore) はスチール弦です。そのほかにもたくさん弦を作っているメーカーがあります。その上同じ名前の弦でも、太さなどに変化を与えて細かく種類分けされています。例えば、ピラストロのオイドクサのA線は、7種類の太さがあり、(13 3/4) などと書かれているのがそれです、もっとも普通標準的な太さ以外の弦を見つけることは困難ですが。一般的によく見かける表記方法ではweich, dolce, soft, lightが細めで mittel, mediumが標準。stark, forte, strongと表記されているのが太めです。英語であったりドイツ語であったり、フランス語、イタリア語様々な言語が使われています。

弦について質問がある方や楽器との相性などに疑問がおありの方は演奏家、楽器製作家としてアドバイスさせていただきます。

